

日本あちこち河川遡行記（第281回）

奈良1-6-2. 葛城川（その3） 令和1年8月22日（木） 晴

2週間ぶりの遡行に出かける。お盆には東京在住の子供たちの帰省と台風襲来でおとなしくしていた。今回の台風（10号）は事前の情報の効果でJRは早々と事前計画運休を決めたが、当日の風雨は予想よりも小さく拍子抜けであった。強風範囲の巨大さが強調されたが、私はその最低気圧がそれほどでもなく、かつ台風の北東部に強烈な雨雲が無いことから勢力の小さな台風と睨んでいた。たいした狼で無かったことから次の台風の時に気が緩むのが怖い。いつも大げさな報道では無くもっと科学的に分析した情報を出す必要がある。例えば、台風のエリアの普通の平均気圧と発生した台風の各ポイントの気圧との差を積算し、台風全体の気圧エネルギーを今までの台風と比較し、ランク分けして風雨の強さを推測する。

前回の帰路に利用した近鉄南大阪線の「浮孔」駅に向かう。途中の「古市」駅で乗り継ぎ電車を待っているとスター「青のシンフォニー」が通過して行くこの特急は普通の特急券の他に特別車両料金も必要な手が届かない列車である。



01.今回調査区間位置図



02.青のシンフォニーが通過

高田市で後から来る各停に乗り換え、11時44分浮孔駅に着く。ホームのベンチでTシャツを脱ぎ下着のシャツだけにして上に地形図や筆記具、塩等を入れるチョッキをはおり、双眼鏡、首に水に浸した化学タオルを巻き、腰タオルのスタイルで日傘を開いて出発進行！びしょびしょになる下着を帰りの電車に乗る前に脱ぎ、隠しておいたTシャツに着替えるのだ。



03.南大阪線「浮孔」駅からスタート

前回歩いた道を歩き川の右岸に着く。長い付き合いの「京奈和自転車道」と今日も付き合い南に向かう。すぐの国道24号の「葛城川橋」は4車線の立体交差橋の両側に歩道+車線の側道橋が有り右往左往して見ていく。

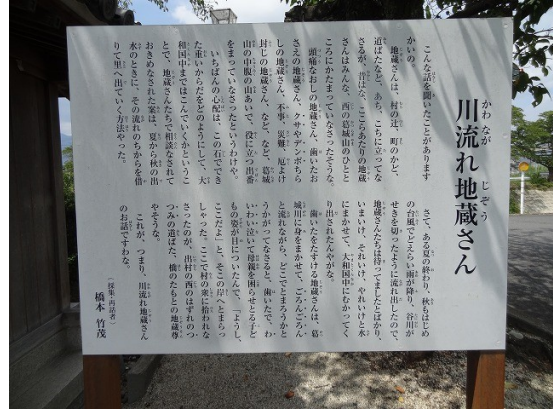


04.土手の上の「京奈和自転車道」を南に

次の「地藏橋」に来ると橋際に立派な地藏堂が建ち、その横に解説板が有る。お地藏さんのお名前は「川流れ地藏」とのことで、西の彼方の葛城山の中腹には多くの受け持ちの異なるお地藏さんが出番を待っていた。各種の悩み、病気に応える専門の地藏さんが揃っていたようでまるで総合病院のようである。「クサとデンボ」という懐かしい言葉も見える。その内の歯痛専門のこのお地藏さんは大雨の時に川の流れて乗って下り、この地で子供が歯痛で泣き叫ぶのを聞きここに落ち着いたとの話で、まるで日本昔話のようだ。



05.立派な地藏堂が橋際に



06.川流れ地藏は葛城山から流れて来たのだ

盆が過ぎて少しは暑さが和らぎ今日もそのつもりでやって来たが、なんの、なんの、手元の気温を見ると 36.7 度も有るぞ！こりゃ丙案で行くしかなさそうだ。

河床に真砂が溜まった川の向こうには川名の葛城山が見える。今日は土手の草刈り作業中で本来のり面の締固めに使用する重機を草刈りにも利用しているこの間出会った高田川の施工業者と同じかもしれない。

右岸側を進むと対岸に 2 頭のポニーが居る。馬に出会うのは珍しい。



07.「葛城」の山と川が一緒に見える



08.ポニーが 2 頭居るぞ

大和高田市から葛城市に入り土手道を進む。西から二次支流の「安井川」が合流してくる地点の南に大きな工場が見える。奈良県と工場とはミスマッチの

感じがするがシャープの工場であった。



09.支流の合流点の向こうにはシャープの大きな工場が

葛城市から次の「御所市」に入る。小休止を繰り返しながらゆっくりと進むと丙案の御所駅に近い「桜橋」に着く。橋の親柱と高欄には桜が満開である。奈良県の川の橋には親柱に特徴の有る橋が少なかったが、やっとまともな親柱に出会う。

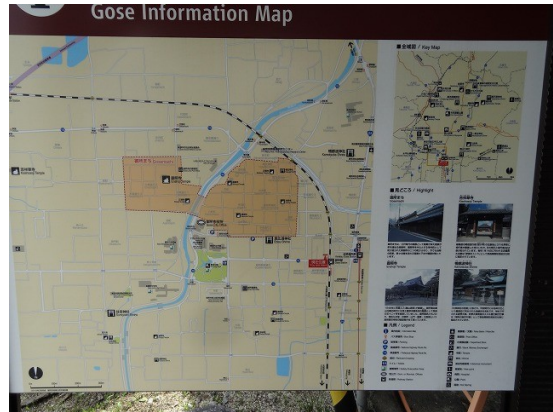


10.「桜橋」は親柱も高欄も桜満開だ

ここがキリが良いので川を離れ西の駅に向かう。700mほど歩くとJRの御所駅がひっそりと建っている。駅前には市中心部の絵地図が有る。ここ御所もかつては寺内町として発展したようで、葛城川の両側に広がっている。大和はカワイイマスコットキャラが花盛りであるが、ここ御所市はゴセンちゃんだ。



11. JR 和歌山線御所駅はひっそりと



12. 御所も川を挟んで寺内町が広がる



13. 御所市のマスコットキャラは「ゴゼン」ちゃん

発車時刻と運賃を調べると、電車は1時間に1本、運賃は天王寺まで760円。この後帰路について近鉄御所駅では1時間に4本、620円也！勝負になりまへんなー。

暫し休憩し30分以上の待ちになるので足を引きずり更に西の近鉄に向かう。駅の南側の踏切を越え斜めに進むと国道166号の向こうに近鉄御所駅が、小さなバスターミナルを備えて広がっている。ここには知る人ぞ知る長距離バスが立ち寄るのだ。大和八木駅から新宮まで6時間40分ほど、5,250円の長旅である。一度乗ってみたいものである。県南部に住む人たちの唯一の県都に向かう公共交通手段である。

バスセンターには葛城山に向かう観光絵地図が立っている。葛城、金剛両山から流れる川が正確に描かれ、手元の地形図も降参だ。葛城市と御所市とは名前と山が一致しないぞ。



14.近鉄御所駅はバスターミナルも
タクシーも



15.日本最長一般道路路線バスの
新宮行きに乗れる



16.御所駅は葛城山登山のベース基地だ

今日は往路はいつもの「おとなび早特こだま指定席切符」利用であるが、帰りの切符を家に置き忘れて来たので天王寺から普通の切符を買って新快速、各停の乗り継ぎとなる。あー勿体無いことをしてしもたなー。

駅の涼しい待合室でびしょびしょの下着を脱ぎTシャツを取り出し着替えて電車にご乗車。

本日の歩行距離：5.5km。調査した橋の数：12。

総歩行距離：10,524.0km。総調査橋数：13,503。

使用した1/25,000地形図：「御所」（和歌山6号-）